

【理事長よりご挨拶】

フィリピンの台風による大災害は、東日本大震災からの復興に取り組む日本にとって人ごととは思えず、レイテ島をはじめ被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

長女が大学生の頃、赤城山のキャンプで拾ってきた我が家の飼い猫「忠治」が布団に潜り込んでくるようになり、本格的な寒さの到来を実感する季節になりました。



会員各位をはじめ日ごろよりご指導いただいています関係者の皆様にはご健勝にて日々ご活躍のことと拝察いたしております。

民主党政権で野田佳彦前首相が衆議院解散を表明したのが、昨年11月14日でした。その後衆議院総選挙が行われ自民党が政権を奪還して安倍晋三内閣が発足しました。安倍内閣はデフレ脱却を柱に据えた経済政策アベノミクスを打ち出し、その効果で株価は70%近く上昇しましたがここに来て停滞感も出てきました。デフレ脱却に向けて正念場かもしれません。

弊機構の顧問で自由民主党副総裁の高村正彦先生が経団連との会合で、「デフレ脱却には賃金の引き上げが不可欠」と捻じ込みましたが、冬のボーナスの行方と来年の春闘での賃上げ交渉の成り行きが注目されるようです。

このような日本の経済環境の中で我が日本コンテンツ振興機構も、コンテンツ産業の生き残りをかけて、そして日本の経済を発展に寄与するために真剣な取り組みを続けています。機構が目指してきた「デジタルコンテンツ・シティー構想」の見直し作業が山場を迎えています。

日々進展の速度を上げる技術革新の中で、規定の方針にとらわれることなく弾力的に対

応し核心を得た議論をつき重ねています。

野口専務理事には議論の中心的な役割を担っていただいております。

立冬が過ぎ寒さに向かいます。一日のうちでも寒暖の差が大きな気候が続きます。皆様には健康に留意され益々ご活躍されますようご祈念申し上げます。

平成25年12月吉日

理事長 秋田敏彰

## 【会員紹介】

CPO-JP のメンバーをより知って頂く為に、今回は有限会社コスモ・ファンシー様をご紹介させていただきます。

### □元々は印刷屋もしくは看板屋

弊社は、昭和43年にスクリーン印刷を事業の柱として、主に弱電メーカーなどの工業系部品としての印刷物（ラベルや直刷り）の製造・提供をする会社として操業しました。その後46年に有限会社として設立し、今でも頑に有限会社にこだわって事業を続けております。

その後シール印刷やオフセット印刷などを取り込みつつ総合印刷業として展開していましたが、縁有って、地元で初となるカッティング・マシンの導入をし、とりあえず小ロットのステッカーの製作や看板屋さんの下請け業務を開始。しかし、カッティング・マシンの小型化・低価格化により普及が早まり、一気に仕事が無くなりました。その為、それまでに培っていた看板に関わるノウハウを生かし、自ら看板の企画から製作までを行う様になったのです。

### □3Dとの出会い

2008年の秋。これからは立体的な（まだ3Dとは言っていなかった）表現が必ず必要となるからと、デザイナーに3Dソフトを与えて勉強を始めさせました。その様な中、その年の暮れにテレビで3Dプリンターの話題が取り上げられました。3Dプリンターであるならきっと立体物に印刷をするのだろう、と勝手に想像した訳ですが、もしそうならそれはそれで凄いΣ(\* ω °)ノ話だと見ていた所なんと造形物そのものが出て来ましたからもうΣ(° ▽ °)ノビックリ！ すぐさまネットで調べて、翌日Zコーポレーション（当時）にアポを取り、出掛けました。そこでまた感心し、翌週会社スタッフ全員で再びZ社へ。全員でこれからのものづくりの方向だろうと確認し合い購入を決定しました。そしてZプリンター650が翌春3月に納入されたのでした。

### □3Dとの格闘

Zプリンターが導入されて、そういうものが在りますよというアナウンスをきちんと行えば仕事有ると思っておりました。でも、全く有りませんでした。ほぼ1年、3D事業に関しては冷や飯を食っていた状態です。でも今でも思います。その1年間こそが、今の弊社の3D事業の方向性を決めたのだと。

何しろ仕事がありませんから、元々印刷関係で仕上がりには厳しかった弊社スタッフは、Zプリンターの石工の仕上がり感が嫌で嫌で、どうにか綺麗にならないものかと試行錯誤を繰り返しました。その結果、ボンド含浸だけでも綺麗に仕上がる手法を獲得。更には、

西村コートなるコーティング技術も開発し、他では類を見ないとんでもない仕上がりを実現してしまいました。



これは今正に、3D出力サービスを行っている他の会社に対し大きく溝を開ける強みとなっています。出来るものならやってみろと！

そして、当初仕事が無かったもう1つの原因として、データが無かったことが上げられます。3Dソフトの勉強は先駆けて始めていたものの、通用するレベルではなかったのです。「データが有って出力をする」という従来型のビジネスは3DWorldに於いては通用しなかったのです。当時データは有りませんでした。そこで、無いものなら作れば良い、と、とにかくデータに関して勉強・実地・勉強・実地を繰り返し、また多くのソフトも導入し、人も入れ、データの作れる会社になろうと懸命に努力しました。また、実物が有るのであればそこからもデータを作ろうということで、ホビー業界としては初となるであろうCTスキャンを使ったデータ作りに着手しました。とりあえずスキャンしただけでも使用に耐えうるデータが出来る様に。

勿論現実的には全く修正無しとは行きませんが、ほぼ目標は達せられました。この技術もまた、他とは一線を画すオリジナルな技術となり、今では大変重宝がられ、使って頂いております。

全ては暇のなせる技(笑)。放っておくと何をしでかすか分からない会社にこそ面白みが有るのだと思っております。



【ドラゴン原型】



【スキャンデータ】

#### □今後

まだまだここに書き尽くせない程の、実は大変な苦労話があるのですが、欠き始めると何ページ頂いても尽きませんのでざっと紹介させて頂きました。が、いずれにせよ今までは既存のコンテンツを利用させて頂くに過ぎませんでした。勿論、素晴らしいコンテンツがこの国には溢れる程在る訳ですから、どんどん利用させて頂きたいと思っております。しかし、希望とすれば、出来れば自分達で生み出したい。もっともっと勉強して、もっともっと磨いて、喜ばれるコンテンツって何なのか、新たなコンテンツって何なのか、見だし生み出せたら素敵ですよ。いつになるかは全く分かりませんが・・・(笑)。

#### □最後に

そんな経緯でここまで来て、そんな先の事を考えている社長でありスタッフであります。皆様のお力に少しでもなれるのであれば、喜んで（出来る事は♪）なんでもやらせて頂きます。若干東京から離れた土地で事業をしておりますが、その距離を感じさせないネットワークを展開させたいと思っています。これからも、宜しくお願い致します。

有限会社コスモ・ファンシー  
代表取締役 齋藤公誉



## 【事務局より】

今年もいよいよ残りわずかとなってしまいましたが、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。去る11月22日、25年度第3回理事会開催されましたのでご報告させていただきます。

### 平成25年度 第3回理事会

- ・日時：平成25年11月22日（金） 16:00～18:10
- ・会場：日本アイ・ビー・エム株式会社 本社 7F
- ・理事出席 9名 理事欠席 7名 過半数により理事会開催  
出席理事「秋田敏彰、野口和紀、小山昌孝、齋藤知也、林 純一、長澤剛史、安藤弘隆、村上 徹、鈴木良征」

#### 1. 理事長挨拶

コンテンツシティ構想見直しについて語る。

#### 2. 議長指名

秋田理事長が議長を務める。

#### 3. 決議・審議事項

□第1号議案 今後のCPO-JPの活動について スタジオディーン 野口氏

今後のCPO-JPの活動について、「日本動画協会 都市再生ステップアッププロジェクト」に絡めて提案があった。

日本動画協会が進めている上記プロジェクトは、7年後をメドに、マンガ、アニメーション、ゲーム等に関連する産業界と教育・研究機関、所蔵館とが連携し、課題解決の為の連絡協議の場を創出し、本分野に関わる国内外への情報発信、人材育成、調査研究による文化的な価値向上、教育普及、文化資料の収集・保存等、総体としての文化的な振興を行うものである。

特に、コンテンツ関連の人材育成、研究施設の補助などを業務とする。

上記プロジェクトについて、CPO-JPが関連していくかどうかの提案、共有することのメリットが話し合われた。

#### ・コンテンツを保持する機関としての関連

国内外のアニメ・漫画・ゲームをまとめる場（博物館）としての機能を上記プロジ

エクトが業務内容の1つとして掲げている事から、アーカイブの保存の現状についての報告（ポストプロダクションスタジオ等に一部バックアップが残されてはいるが、保存について重要視されていない現状）がなされた。

□事業委員会報告 日本 IBM 小坂氏

デジタルコンテンツ協会より経済産業省に提案している、我が国経済社会の情報化・サービス化に係る基盤整備についての報告があった。

(1) 「クラウド基盤を統合した商業映像制作プロジェクトの実施と実用性検証」  
検討WG（案）

（再委託）白組（鈴木氏）、エヌ・デザイン、さくらインターネット

(2) 「クラウド運用でのデータ共有と効率的なプロジェクト管理及びクラウドレンダリングの実証実験」 検討WG（案）

（再委託）東映ラボ・テックヤフージャパン

上記、事業についての進展報告があった。

□事務報告 スタジオディーン古賀氏

平成25年 11月21日時点での会計報告がなされた。

□その他

1, 事務局について

候補である秋葉原駅前の場所を、2014年1月よりCPO-JP事務局として運営する提案が再度話し合われた。

2, 当機構定款について、以下の変更の提案があった。

- ① 理事の変更
- ② 理事会出席者の委任状の扱い
- ③ 議事録の署名に関する事（理事長の署名のみにする）

以上をもって本日の議案が終了したので、議長は18：10に閉会を宣言した。

以上。

平成26年の運営委員会及び理事会の開催日程は以下の予定です。

- 1月21日（火）・・・運営委員会
- 2月18日（火）・・・運営委員会
- 3月25日（火）・・・第四回理事会

開催曜日はこれまでの金曜日から火曜日に変更になりますので、ご注意ください。

ご意見・ご感想は下記の事務所までご連絡ください。

編集責任者 専務理事 野口 和紀

日本コンテンツ振興機構

〒180-0003 東京都 武蔵野市 吉祥寺南町 4-4-13 TEL:0422-35-3305 FAX:0422-70-3073

ご意見・ご感想は下記の事務所までご連絡ください。